

ザトウクジラの調査研究 国際的な研究活動も含めて

小林 希実（一般財団法人 沖縄美ら島財団）

ザトウクジラは、夏は高緯度の冷たい摂餌海域で餌を食べ、冬は低緯度の温暖な繁殖海域に回遊して交尾や出産などの繁殖活動を行う。北太平洋では、ロシア、アラスカ周辺等が摂餌海域として、ハワイ、メキシコ、日本周辺等が繁殖海域として知られる。

（一財）沖縄美ら島財団では、沖縄周辺に來遊するザトウクジラの調査研究を 1991 年から実施している。調査では、尾びれ写真による個体識別を主体として、衛星標識、ドローン等を用いた回遊経路や繁殖行動、ホエールウォッチングやスイム産業の影響等に関する研究に取り組んでいる。これまでの調査から、沖縄周辺に來遊するザトウクジラの約 7 割が、過去数十年に亘り繰り返し沖縄周辺を繁殖海域として利用していることや、ロシア周辺を主な摂餌海域として利用していることなどがわかってきた。また近年は、国内外の研究機関と協力して海域間の個体交流に関する研究にも力を入れている。国内では、北海道、小笠原、奄美、屋久島等との海域間交流について、自動照合システム等を用いた研究を実施している。また、今年から北太平洋全域を対象とした国際的なザトウクジラ研究プロジェクトが開始され、海域間交流や回遊経路の解明が進められている。本発表では、これらの調査活動についてご紹介する。